

第1学年 国語科

教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「国語への関心・意欲・態度」
 - ・進んで話したり聞いたり書いたり読書したりする力を伸ばす。
- 2 「話す・聞く能力」
 - ・相手に応じて事柄の順序を考えながら話したり、大事なことを落とさないように聞いたりする力をさらに伸ばす。
- 3 「書く能力」
 - ・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文章を書く力を伸ばす。
- 4 「読む能力」
 - ・書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・お勧めの本を紹介したり、定期的に読み聞かせをしたりして、普段から本に触れる時間を設ける。
 - ・反復練習が必要なひらがなや片仮名、漢字はゲーム形式の学習活動を取り入れる等楽しみながら取り組めるようにする。
- 2 ・日直のスピーチで順序を整理しながら話したり、質問したりしながら話すことが楽しいと思えるようにする。徐々に話型を増やしていくことで、より複雑な内容の話をしたり聞いたりできるようにする。
- 3 ・2学期から日記の指導を始め、毎日書く練習を積み重ねる。
 - ・ワークシートなどで枠を用意し、型に合わせて適切な構成で文章を書けるようにする。
- 4 ・毎日の音読宿題や、読み方を工夫することで様々な角度から内容を見ていく。時には動作化を入れることで、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読む。
 - ・毎週金曜日5時間目を読み書きの学習に当てることにより、読み書きをスムーズにできるように指導していく。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第1学年 算数科

教科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理の良さに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「算数への関心・意欲・態度」
 - ・与えられた課題に対して自分の考えをもち、発表しようとする力を伸ばす。
- 2 「数学的な考え方」
 - ・数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能の習得や活用を通して、数理的な処置に親しみ、考え表現したり工夫したりできる能力を伸ばす。
- 3 「数量や図形についての技能」
 - ・整数の計算をしたり、身の回りにある量の大きさを比較したり、図形を構成したり、数量の関係などを表したり読み取ったりする力を伸ばす。
- 4 「数量や図形についての知識・理解」

具体的な授業改善策

- 1 ・算数的な活動に親しみをもたせるためにゲーム形式の学習やプリント学習を行う。
 - ・算数に対する興味・関心を高めるために絵やI C T機器など視覚情報を多く取り入れる。
- 2 ・思考の整理や説明の補助とするようなノート指導を行う。
 - ・既習事項との違いに気付かせ、既習事項を生かして学習課題に取り組みさせる。
 - ・思考力を高めるために、ベーシックタイムで使用しているテキストを家庭学習でも活用する。
- 3 ・具体物や半具体物の操作、動作化等を段階的に取り入れることで、量感を育てたり道具の使い方の技能を高めたりする。
 - ・ホワイトボードやI C T機器等を活用することでも、図形の構成や、数量の読み取りの理解につなげる。
- 4

評価・修正（年度末）

成果

課題

第1学年 音楽科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「音楽への関心・意欲・態度」
 - ・楽しく音楽にかかわり、音や音楽に関心を持ち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組む力を伸ばす。
- 2 「音楽表現の創意工夫」
 - ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、表現を工夫する力を伸ばす。
- 3 「音楽表現の技能」
 - ・音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したりする力を伸ばす。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲や演奏の楽しさに気付き、味わって聞く能力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・教科書の他にも、身近な手遊び歌やリズム遊び、季節の歌や地域の歌などを取り入れる。
 - ・日ごろから、身の回りにある音や音楽に関心をもたせ、学級活動の中に取り入れる。また、学校行事・村行事、地域の福祉施設での交流などで合唱や合奏の発表の機会をもつ。
- 2 ・歌詞を音読し意味を理解したり、歌詞の情景を想像したりする活動を取り入れ、歌い方を話し合い工夫させる。
 - ・お互いの声や楽器の音の重なり合いを聴きながら合わせて演奏できるように、聴き合う活動を充実させる。
- 3 ・音程を正しく取ることや、リズム打ちが苦手な児童もいるため、交互唱やリズム遊びを取り入れ、よく聴いて歌う活動を通して、調和のとれた歌唱で表現させる。
- 4 ・楽曲を聴いて思い浮かべた内容を発表したり、写真や実物の楽器を見るなど、情景を想像しながら聴いたりする。
 - ・曲に合わせて体を動かしたり、曲に出てくる楽器を音楽に合わせて鳴らしたりして、拍の流れや音楽の特徴を感じながら楽曲を鑑賞させる。

評価・修正（年度末）

第1学年 図画工作科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

1 「造形への関心・意欲・態度」

- ・ 図工の授業を楽しみ、作品を作る喜びを感じることができる。様々な題材に興味をもち、最後まで意欲をもって作品と向かい合い、自分の作品に愛着をもつことができるような姿勢を育む。

2 「発想や構想の能力」

- ・ 課題に対して素直に考え、自由な発想をすることができる。自分だけの考えを大切にし、作品として形にしていくことよさを味わわせる。

3 「創造的な技能」

- ・ 道具を用いての作品制作を落ち着いて行ったり、新しい道具も説明をよく聞き、意欲的に使おうとしたりすることができる。様々な道具の使用法を身に付け、表現の幅を広げる。

4 「鑑賞の能力」

- ・ 友達の制作した作品に興味をもち、そのよさに刺激を受けて自分に生かそうとする姿勢がある。作品鑑賞の機会を増やし、様々な発想や作品表現があることを知らせていく。

具体的な授業改善策

- 1 ・ 様々な手法での作品制作を経験させ、造形への興味を高めていく工夫をする。児童の自由な発想を受け止め、よさが引き出せるような言葉かけを工夫する。児童が意欲を持続できるような導入や題材を工夫する。
- 2 ・ 児童のつぶやきやアイデアを取り上げ、再度言葉にすることで「自分の考え」を意識させる。
 - ・ 授業記録を取り、後で作品制作や鑑賞及び評価等に活用することができるようにする。
- 3 ・ 使うことができる道具を着実に増やすため、題材に合わせて使用する道具をある程度限定して、丁寧に指導する。安全な使い方についても確実に指導する。
- 4 ・ 作品鑑賞を通してお互いの作品のもつ魅力やよさを感じ取らせていく。
 - ・ 作品発表の形式を工夫し、多様な視点で制作した作品を見ることができるようにする。

評価・修正（年度末）

第1学年 生活科

教科の目標

具体的な活動や経験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

伸ばしたい力（観点別）

1 「生活への関心・意欲・態度」

- ・身近な人、社会、自然及び自分自身に関心をもち、進んでそれらとかかわり、楽しく意欲的に学習したり、生活したりできる力を伸ばす。

2 「活動や体験についての思考・判断」

- ・調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校、家庭、地域における自分の生活について、自分なりに考えたり工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現する力を伸ばす。

3 「身近な環境や自分についての気付き」

- ・具体的な活動や体験によって、学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長の様子、それらと自分とのかかわり及び自分自身のよさに気付けるようにする。

具体的な授業改善策

- 1・身近なものを工夫することで様々な遊びの道具に変化することを体験させる。
 - ・活動を通して工夫しながら楽しめるようにするために、遊びの場や時間を十分に設定する。
- 2・友達とのかかわりや植物の栽培を通して得た気付きを表現しやすくするために「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示し、多角的な見方ができるようにする。
- 3・他学年・地域の方との交流を通して、多くの人と活動することの楽しさを味わわせる。
 - ・愛校心や郷土への愛着をもてるように、母島にあるものや場所を使った体験活動や地域の人々との交流の機会を多く設定する。
 - ・植物の栽培活動（朝顔やマクワウリ、トウモロコシ等）や収穫を通して、植物の生長を喜ぶとともに自分成長にも気付けるような活動を設定する。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第1学年 体育科

教科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」
 - ・ 誰とでも仲良く、順番やきまりを守って主体的に学習に取り組む態度を養う。
- 2 「運動や健康・安全についての思考・判断」
 - ・ 「どうしたら上手に動けるか」「どんな動きが良かったのか」など、動き方を工夫する力を伸ばす。
- 3 「運動の技能」
 - ・ 様々な運動の技能を身に付けさせると共に、体力テストの結果から、適切なボールの投げ方を身に付けさせ、「投げる能力」をはじめとして、「捕る能力」「蹴る能力」をさらに伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・ 遊具や施設の正しい使い方、ルール等を全員がその理由と共にしっかり理解できるよう事前指導を徹底する。
 - ・ ルールを守ると気持ちがよいこと、みんなが楽しくなること等、適した態度をその都度指導していく。
- 2 ・ 友達のよい動きを真似たり、チームで作戦を考えたりする中で、最適な動きに近づけるよう思考する場面を取り入れる。
 - ・ グループ学習等の学び合いの場を設定することで、自分の力にあった練習を選べるようにする。
- 3 ・ ゲームの中に、本時で培う技能の要素を盛り込む。
 - ・ 十分な運動時間の確保、分解した動きの説明、反復練習等に取り組むことで、体の動かし方を学ばせる。
 - ・ 遊びの幅を広げるために、授業時に様々な遊びを紹介し、休み時間の外遊びの時間を多く取るようにする。
 - ・ 水遊びでは、泳ぎ方や水中姿勢等の発展的な内容の指導をする。

評価・修正（年度末）

成果

課題